

ブルーベリー

(黒ボク土)

〔土壤肥料〕

酸性で有機質が多く通気性の良好な土壌を好む。また、根域が浅く、樹幹以上の範囲に広がることから、土壌を常に膨潤な状態にする必要がある。吸収根のほとんどが細根であるため、肥料濃度が局部的に上がらない工夫が施肥面で必要である。常に一定濃度のアンモニア態窒素があることが望ましいことから、葉色を参考に分施や緩効性肥料などを利用した施肥を行う。

土壌表面管理は、清耕法、草生法、有機物(おがくず、菌床かす、もみ殻、わらなど)によるマルチ法などがあるが、夏期の根域周辺土壌の乾燥防止対策を主とした厚さ10cm程度、畝巾1m(10~20t/10a)の有機物によるマルチに利点がある。有機物によっては根域土壌のpHを上昇させるものがあるので、pHのチェックを1年おきに実施すると良い。

〔病害虫・雑草防除〕

休眠期に、ロウムシ、イラガ類のマユなどの捕殺をせん定とともに実施する。生育期のケムシ類、コガネムシ成虫は捕殺を行う。摘み残しの果実はなるべく除去しショウジョウバエの発生を抑える。株元が雑草で繁茂するとコウモリガの発生が増えることやつみ取り作業の障害となるので、除草や有機物を利用したマルチなどにより雑草を抑制する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	根群の発達が予想される土壌へ良く湿ったピートモスを施用する。 有機物(または堆肥)によるマルチ。堆肥は完熟した低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で窒素、カリ含量が1%以下の完熟したものを)を施用する。	ピートモス 500 /10a  有機物2~5t/10a または 堆肥2~3t/10a
化学肥料 低減技術	局所施肥として根域への表層施用を基本とする。 肥効調節型肥料を利用する。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準 以下  有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20~50%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 天敵農薬を利用する。 (対象:ヒメコガネ幼虫) BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象:イラガなどケムシ類) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	ブルーベリーの根は速効性肥料に敏感なので、展葉期から開花期での肥料成分濃度の上昇は、生育に障害をおこすので注意する。また、肥料の急激な溶解をさけるため、できる限り土壌が乾燥しているときに施肥する。 捕殺による虫害防除 (対象:ロウムシ、ケムシ類、コガネムシ) 施肥量の基準は樹齢、樹体に応じたものとする。	

ブルーベリー

(灰色低地土)

〔土壤肥料〕

酸性で有機質が多く通気性の良好な土壌を好む。また、根域が浅く、樹幹以上の範囲に広がることから、土壌を常に膨潤な状態にする必要がある。このため、土壌物理性改善と地下水位低下を目的に客土し、ピートモスなどの有機物を投入する。施肥量、時期は、吸収根のほとんどが細根であるため、肥料濃度が局部的に上がらない工夫が施肥面で必要である。養水分の保持力が低いので、黒ボク土以上に常に一定の濃度のアンモニア態窒素があるよう、葉色を参考に分施や緩効性肥料などを利用した施肥を行う。

土壌表面管理は、清耕法、草生法、有機物(おがくず、菌床かす、もみ殻、わらなど)、によるマルチ法などがあるが、夏期の根域周辺土壌の乾燥防止対策を主とした厚さ10cm程度、畝巾1m(10~20t/10a)の有機物によるマルチに利点がある。有機物によっては根域土壌のpHを上昇させるものがあるので、pHのチェックを1年おきに実施すると良い。

〔病害虫・雑草防除〕

休眠期に、ロウムシ、イラガ類のマユなどの捕殺をせん定とともに実施する。生育期のケムシ類、コガネムシ成虫は捕殺を行う。摘み残しの果実はなるべく除去しショウジョウバエの発生を抑える。株元が雑草で繁茂するとコウモリガの発生が増えることやつみ取り作業の障害となるので、除草や有機物を利用したマルチなどにより雑草を抑制する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	根群の発達が予想される土壌へ良く湿ったピートモスを施用する。 有機物(または堆肥)によるマルチ。堆肥は完熟した低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で窒素、カリ含量が1%以下の完熟したものを)を施用する。	ピートモス 500 /10a  有機物5~10t/10a または 堆肥2~3t/10a
化学肥料 低減技術	局所施肥として根域への表層施用を基本とする。 肥効調節型肥料を利用する。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準 以下  有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20~50%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 天敵農薬を利用する。 (対象:ヒメコガネ幼虫) BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象:イラガなどケムシ類) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	ブルーベリーの根は速効性肥料に敏感なので、展葉期から開花期での肥料成分濃度の上昇は、生育に障害をおこすので注意する。また、肥料の急激な溶解をさけるため、できる限り土壌が乾燥しているときに施肥する。 捕殺による虫害防除 (対象:ロウムシ、ケムシ類、コガネムシ) 施肥量の基準は樹齢、樹体に応じたものとする。	